問4 答

居住対策は公営住宅建設の計画は

今後検討する

▼前野由和議員
老朽化した町営住宅等の建て替え計画はあるのか。建て替えないのなら住宅をどのように確保するのか。

▼岩﨑憲郎町長
現時点で計画はない。公共施設管理計画の策定の中で検討していく。

問5 答

道路の安全対策は整備が不十分ではないか

必要な場所には早急に対応する

▼小笠原妙子議員
町内全域の危険箇所を再点検しガードレールを設置するなど、住民が安心して通行できるようにすべきではないか、今後の方針は。

▼岩﨑憲郎町長
危険な箇所や懸念される所があれば、すぐに知らせて欲しい。必要な箇所には対策をしていく。

設置されたカードレール

問6 答

プレミアム商品券の利用状況は周知が不十分ではないか

商工会と連携する

▼小笠原妙子議員
消費税増税に伴うプレミアム商品券の利用状況が低調だったのは、行政と商工会が連携不足や不便さもあり、また対象者へ情報が浸透していなかったからではないか。

▼岩﨑憲郎町長
対象者には個別に通知した。商工会と連携して取り組み、消費購買力を高める効果は一定あったと考える。

■実績（2/29 現在）

補助対象者	1,646 人	1,188 世帯
引換券発行者	361 人	非課税世帯 326 人、子育て世帯 35 人
販売口数	1,412 セット	1 セット 10 枚 販売価格 4,000 円で 5,000 円分
販売額	5,648,000 円	

プレミアム商品券

問7 答

土佐れいほく博の効果について

今後の取り組みは

取り組みを活かしていく

▼小笠原妙子議員
自然が最大の魅力である嶺北地域は、オールシーズン観光客を呼び込める戦略が必要だと考えるが、れいほく博を基にした本町の今後の取り組みはどうか。

▼岩﨑憲郎町長
博覧会の通年開催は困難だが、博覧会の取り組みを今後に活かす。

問8 答

本町を支えていける取り組みが必要

若者定住策はあるのか

地域の魅力アップに取り組む

▼小笠原妙子議員
人口減、少子化の解消の一助となる若者定住対策は必要だと思う。独身者の結婚支援へ行政が取り組めないか。

▼岩﨑憲郎町長
過去には子育て支援金や婚活イベントなど実施した。今後は地域の魅力を高めることから若者定住を目指し、積極的に取り組む。

問9 答

地域の支え合いについて問う　集落の主体性を活かした集落支援員の配置を

配置について検討する

▼三谷よし惠議員
超高齢化社会になり人口密度も減り、近所が疎遠になっている状況での地域コミュニティの再生について、町長の考えは。

▼岩﨑憲郎町長
地域の課題を地域で解決できなくなっている現実を、行政と地域が一体となって従来のコミュニティ機能を再生することが、地域を将来に繋いでいく取り組みだ。

▼三谷よし惠議員
地域毎に実情も違っているので、地域からの要望を聞き、地域で選んだ集落支援員を配置する時期に来ているのではないか。

▼岩﨑憲郎町長
地域のコミュニティの一員として集落支援員を確保し、地域コミュニティの再生に地域が、主体性を持って取り組めるよう検討する。

問10 答

集落活動センターの今後は

センター間の連携が必要ではないのか

連携を強化する

▼藤丸高德議員
町内に5グループの集落活動センターがあるが、活動の結果得た産物をサイクル化する取り組みをしてはどうか。

▼岩﨑憲郎町長
地域主体の活動がお互いに連携することは、地域を将来へ繋ぐ取り組みを推進する上で非常に大切なことである。地域活動の充実と町内全域への拡大と共に、連携の強化に取り組む。

岩原集落活動センター

問11 答

町長の進退について問う

次の選挙に出馬するのか

出馬は考えていない

▼藤丸高德議員
次の町長選挙に出馬するのか。しないのであれば後継者は考えているか。

▼岩﨑憲郎町長
残された任期を全力で全うする。次の選挙の立候補は考えていない。
町長は町民が選ぶもので、私が指名をすべきではないと考える。